

株式会社田神工作所

業種	製造業	事業所所在地	愛知県一宮市	資本金	18,000千円
				従業員数	20名

被承継者			承継者		
田神 孝祐	64歳	※承継時	田神 知之	32歳	※承継時
事業承継を行った時期			被承継者と承継者の関係		
2017年		10月	子ども		
承継前の主たる事業の内容			承継前の主たる事業の課題		
高周波焼入れを専門とする金属熱処理業を営んでおり、工作機械部品、建設機械部品をメインに受注している。小物製品から超大物製品まで、多品種少量ロットに対応でき、焼入れ、焼戻し、歪矯正を一貫して行うことができる。			・既存商品・サービスの売上高の拡大 ①高難易度の多品種少量ロットが受注のメインであるが、加工不良率を低減させる。 ②競合他社にはないサービスを提供して、付加価値を高める。 ③次世代への技能の伝承。		

事業承継を実行するまで					
きっかけは？		承継計画の立案		承継までの不安と準備	
承継実行の	8年前	被承継者と承継者で話し合ったこと		被承継者の承継に対する不安	
承継者との決意の元、入社と同時に事業承継までのスケジュールを作成した。		自社株評価の低減方法、株式譲渡に伴う贈与・相続税額の把握、従業員・取引先の不安払拭、更なる業績向上に向けた経営・営業戦略等。		承継者は、若年かつ経験不足でもあり、全ての面において不安です。しかし、私自身も先代より承継し、35年間事業を営んできましたので、今後もその経験を伝え、少しでも不安を消そうと考えています。	
		関係者との調整		承継者の承継に対する不安	
		立案・計画の素案を精査し、修正の可否等を専門家と協議し確定させた。		会社経営に関する知識・経験とも不足しており、これを如何にしてスピーディーに克服するか。	

これに一番苦労した！

社長就任と同時期に、従業員の世代交代・若返りを進めていたが、事業承継に伴って現場に出る時間が削減されたため、新入社員・若手社員への指導時間が十分に確保出来なくなり品質が低下する事象が発生した。事業承継とともに技術の伝承を事業承継完了前に確実に行うという従業員指導の重要性を痛感した。

事業承継について相談したこと		
相談機関の業種	承継に関して受けたサポート内容	
税理士・税理士法人	顧問税理士から自社株の贈与のスケジュール、税制改正等の対応方法の指導又、商工会議所主催の事業承継税制セミナー等を受講し理解を深めた。	
いつから相談？		
承継実行の		8年前
相談のきっかけ		
以前から取引やつきあいあり		

新たな取組の標題

三次元測定機を活用した金属熱処理変形データベースの構築による収益力の向上

新たな取組の内容	役務の新たな提供の方式の導入
----------	----------------

- 高周波焼入れによる金属熱処理では、熱処理路の加熱・冷却による膨張・収縮の不均一や金属組織・結晶構造が変わる際の膨張・収縮によって起こる製品の歪みが課題であった。そのため、焼入れを行う製品ごとに適したサイズの測定器を使い分けねばならず、全ての製品を測定すると大変な数の測定器を所有しなければ測定することができない。
- そこで、ひとつの計測器でほとんどの寸法測定できるメリットに加えて、熱処理による変形のデータ収集・分析を重ね、金属熱処理変形データベースを構築することができる三次元測定器を導入した。
- これにより、焼入れ前後の寸法を測定、そのデータ蓄積によりデータベース化することで、熱処理による変形の予測可能性を高めることができる。素材や形状、熱処理条件ごとに熱処理前後の変形データを分類し、新たな焼入れを行う際にどのくらいの歪みが起こるかを予想し、熱処理条件や製品側の改善を検討できるデータベースを構築する。
- この取組により、製品メーカーと当社の双方が加工不良を低減させることが出来るとともに、当社からの製品設計段階からの積極的なアプローチや、高付加価値の情報提供を行うことで、より一層の受注増加が期待できる。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳	
従業員20名のうち、16名が当社所在地の一宮市に在住するものであり、残る4名も近隣の市町村の在住者である。今後とも地元地域からの雇用を続けていく方針である。近隣市町村は製造業集積地域であり、当社はこの地域への売上が全体の半分以上を占める。	経費の主な使い道	
	設備費（三次元測定器購入費）	

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施

特になし。

今後に向けて～次の目標	
2018年から2021年に向けて	三次元測定機を導入し、当面は加工不良の低減や受注増加を図るものであるが、このノウハウを活かして将来的には、より精度が高く大型の門型測定機や恒温室を導入し、高い品質レベルが求められる航空機部品の熱処理加工など他分野への参入を目指す。
売上高	9 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
事業承継は、被承継者と承継者が互いの意思を尊重し合い二人三脚で進めていく事が何よりも大切だと考えます。そして専門家の助言に耳を傾け、知識を深めていく事が必要だと考えます。	事業承継は各社、各々適した進め方があると思います。知らないまま、分からないまま、何とか考えているのが一番危険だと感じました。まだ先の事だと先送りせず、早い段階から承継者が主導で進める事が理想的ではないかと思えます。